

会員寄稿

昔の海外・こぼなし

佐々木 実

(昭和29年工業化学科卒)



私の現役時代について、2001年に小中学同級会の文集に投稿したのがあったので、これを秋工学会報にも投稿します。

文集に海外のことで是非にとの電話をもらった。これにはことわりの“こ”の字も云えず書くことになりました。

私は三井物産で、永年全世界を対象に輸出業務をしていました。全世界と云っても、日本から常時機械を買ってくれるところは後進国であり、数えたこともないが40~50カ国ぐらいでした。

この文集に仕事のことを書いても仕方がなく、逸話のみを纏めてみることにします。海外、特に後進国は猛烈なスピードで先進国化へと変化していますので、私の経験した1965~1995年の海外は現在とかなり違う昔の海外のことです。

仕事以外の話と云っても、商社の輸出業務など見当も付かないのが普通ですので、日常の仕事の仕組みを簡単に。

会社では、全世界の主な都市には支店などがあり、日本の駐在員と現地採用のその国の人々が勤めております。全世界英語が基本語となっています。会社の専用テレックス網を通じ、今日テレックスを打っておくと、日本の夜は海外では昼で働いていますので、翌朝出社すると、私への返事が着いています。支店が充実しているので、特に海外へ出張して処理する必要がないのですが、セールスキャンペーンとして日本からわざわざ客に顔を出し、現地社員では出来ない宣伝や表敬に努めるため年1~3回程度出張しても、永年のことですので結構な回数になります。

◎イラン

イランの工業地帯は南部にあり、日中40度にもなる熱帯ですが、首都テヘランは北にあり、時には雪も降ると聞いていました。テヘランではたまたま小雪の降る日に車で出掛けたら途中大雪になり、車が谷間になっている所に入り込み、車がすべて進むも戻るもできなくなりました。とうとう夜中に大雪の降る中、2時間とほとほとホテルまで歩いて帰った。熱帯と思いがちなイランで私自身に起きた珍事です。

その頃イランではNHKの「おしん」が週一回放送されており、娯楽の全くないイランでは大変な人気でした。放送中は、ホテルでルームサービスを頼んでも従業員は絶対動かない。翌朝は、ホテルでも町でも「おしん」の話を日本人の私に話し掛けてくる。町でも支店の職場でも女性は全て黒いベールを被っており、顔は見えず。イランでは酒を飲んでいるのを見つくと、直ちに監獄行き。それでも日本人の駐在員の自宅でヤミのウイスキーをこっそり一回飲んだことがあります。新聞報道で知る現在のイラン情勢では、この国だけは当時とあまり変わっていない模様。

◎韓国ソウル

ソウルに行った時、支店はソウルの目抜き通りに面していました。そこで警察官と学生デモ隊との激突があった。片や放水車と催眠弾に対し学生デモ隊は投石で追っては引き、引いては追う、の約1時間の激突。私は7階の窓から下で繰り広げられる戦いを出張者の無責任さで面白く見物させてもらった。

戦いが終わり、皆引き上げ普段の目抜き通りに戻った2時間後、通りの横断歩道となっている地下道を通して真向いのホテルに帰ることにした。何げなく地下道に入った途端、地下に充満していた催眠弾

のガスで目に激痛が走った。目をちょっとでもあけることができず涙がぼろぼろ、10メートル進んでは立ち止まり歩行困難な状態。なんとかほうほうのていで、150メートル程進んでホテルに辿り着いた。その晩は夜半まで涙が止まらず苦しんだ。

考えてみれば催眠弾の目的は、自分が味わった状態に人をやつつけることにあり、逆にこんな状態の中で1時間もタオルを目に巻きながら戦い抜いた学生達のすごさに感心させられた。韓国人は気性が荒く、直ぐ逆上しやすい。靖国問題などで小泉人形を焼くなど日常茶飯時。最も近づきたくない民族。

◎アルゼンチン

政府の石油公団から研究エンジニアの40歳くらいの男女2名が日本に出張して来た。いつもは若い人が日本の各地を案内するのですが、その時人手がなく私が北九州やその他の会社と、最後はまよりの京都見物に案内した。二人ともアルゼンチンではトップの大学を出て最高の公団の研究者でエリートの両名です。

ところが2人が帰国後、直ちに妻又は夫と離婚し、出張者同士で結婚したとのこと。何のことはない、私と各地のホテルでの旅行の間、2人はすっかり出来てしまい恋道中に私は何も知らず、少しは気を使って世話していたことになる。そう云えば朝ホテルロビーに何時集合と私が指示しても、毎回1時間位平気で遅れる。さぞ毎晩お疲れのことであつたでしょう。冗談じゃないよー。

◎オーストラリア

最後の訪問地パースから帰国のため、空港の両替所で少し多目の現地通貨を米ドルに替えていた。付近で私を見張っていた税関係員につかまり、部屋に連れて行かれた。手持ち荷物はもとより身体も裸にされ徹底的に調べられた。どうも指名手配されている何かの犯罪人と似ていたらしい。

税関トラブルと云えば、日本のあるメーカーの2人を連れてドイツからパリに入った時のこと。メーカーの一人が好き物で、ハンブルグで入手した大量のポルノ雑誌とテープが引っ掛かってしまった。私の下手な英語と英語の不得意なフランス税関とで、弥次喜多交渉が30分も続き、結局没収も罰金も無しで終わった。直後何とも馬鹿馬鹿しくなり、さっさと没収に応じ罰金も払わせて終わりにするのだったとほぞを噛む。

◎出張

出張すると一応頭は仕事のことといっぱいで、とても観光地に行く気は起らないものです。期間が長くなり土・日曜の休日などに全くやることがないと、仕方なく出かけることがあります。イタリアのミラノに1ヶ月居た時、1人で列車でベニス、フィレンツェ、ローマに行つた。パリとロンドンでは、いわゆるハトバスで市内の名所を回っています。現在、塩野七生さん等の著作などでヨーロッパの歴史に興味を持っていますが、その時の時間つぶしに回った観光が大変役立ってきています。そして数々の海外出張で、頭をいっぱいにして取り組んだ仕事のことなど、思い出すこともありません。

◎仕事のこと(簡単に)

あの実(私のこと)の奴は、海外でつまらぬことばかりやっていたと思われても困るので、仕事のことを簡単に少し。

私が40歳台の頃我が三井グループはイランで、大きなプロジェクトを、社運を掛けて始めました。私の所属する部門が主な担当だったので、私も最初から終わりまでの約10年間、この仕事の一部分を担当し一時もとぎれることもなく、10年間走り回っていました。その間イラン革命が勃発し、続いて今度はイランーイラク戦争が起き、プロジェクト進行中動乱の連続でした。

正に晴天のへきれきの事件が次から次に起きて、その都度私の仕事に直接に障害となって影響して来ました。そのたびに真っ青になって、仕事の処理に追われる繰り返しでした。救いは事件の都度新聞・TVで大きく報道されますので、私の取引先などに弁解や謝って回る必要はないことと、いわゆる商売で許される不可抗力事項であったことです。